



すいめん みずくさ は あいだ ほそなが なに
水面の水草の葉の間にある、細長いつつのようなものは何なの

にっこう う は ひろ
日光をたくさん受けるために、葉を広げる

みずくさ りく しょくぶつ おな にっこう たす は なか みず にさん かたん そ
 水草は、陸の植物と同じように、日光の助けをかりて、葉などの中で、水と二酸化炭素を
 ざいりょう えいようぶん つく こうごうせい おこな すこ おお
 材料にして、でんぷんなどの栄養分を作る光合成を行っています。そのため、少しでも多
 くの日光があたるように、みずくさ は かた
 水草は、葉のつき方などに、それぞれくふうをしています。

ハスやスイレン、コウホネなどの水草は、大きな葉をすいめん ひろ
 おお は すいめん で ひろ すいちゅう は おお は
 大きな葉は、水面に出てから広がったものです。水中で葉がのびてくるときは、大きな葉の
 ままでは、じゃまになり、みずそこ ね ふべん
 水底の根もとからのびてくるのには、不便すぎます。

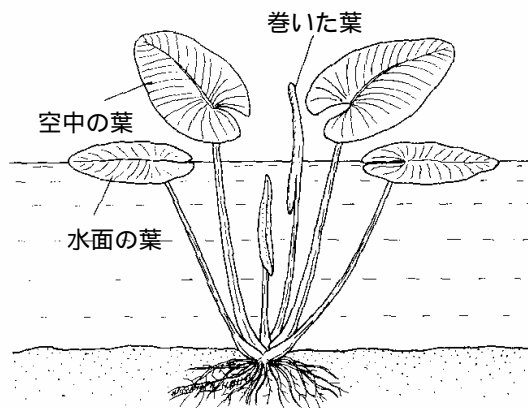
ほそなが わか は ま
細長いつつは、若い葉が巻いたもの

そこで、ちい は
 小さい葉ができるとき、葉の中心の両側から、くるくる巻いた形で葉ができ
 るようになりました。この形なら、かたち ひろ は あいだ すいめん で らく は
 広がった葉の間から、水面に出るのも楽です。葉のえ
 やくきがのびて、葉がすいめん で ま は ひら ひろ
 水面に出たところで、巻いていた葉が開いて広がるのです。このとき、
 このあたらしのびてきた葉が、いちばん
 うえ ふる は うえ ひろ
 上になるように、古い葉の上に広がります。

コウホネは、すいめん は
 水面が葉でいっぱいになると、
 すいちゅう は
 水中とはちがった、かたい葉のえを出して、
 くうちゅう は ひろ
 空中にも葉を広げます。

スイレンやハスの葉は、は した が わ くう き
 はい は うらがわ みず
 葉の下側に空気が
 入っていたり、葉の裏側が水をはじくよう
 になっていて、すいめん
 水面にうきやすくなっています。

(監修・矢野 亮)



コウホネ

